

27日(日)、於：サントリー美術館)音声ガイド脚本執筆業務補助

- ③ 第67回正倉院展(平成27年10月24日(土)～11月9日(月)、於：奈良国立博物館)音声ガイド脚本執筆業務補助

宇野 淳子 学術支援職員

研究分野：アーカイブズ学

【研究業績】

著書・論文

＜論文(単著)＞

- ① 「記憶の声、記録の音：声の継承、音の保存」  
『別冊 Muse2015 記憶と記録：紡ぐ、結ぶ、伝える』帝国データバンク史料館, p.141-145, 2015.12

発表・講演

＜口頭発表(単独)＞

- ① 「神奈川地域資料保全ネットワーク(神奈川資料ネット)について」(歴史資料ネットワーク設立20周年記念 全国史料ネット研究交流集会、2015年2月14日、神戸)

その他

＜解説・解題＞

- ① 「神奈川地域資料保全ネットワーク(神奈川資料ネット)について」『歴史資料ネットワーク設立20周年記念：全国史料ネット研究交流集会報告書』p.63-66, 2015.10

編集後記

東京大学経済学部では、2014年度に業務改善

が行われ、当室も業務の全体を見直す機会を得た。これにより、外部資金獲得機能や外部機関・研究者との連携強化や、調査・研究業務の充実が求められることとなった。

これは当室にとって、専門的な業務の充実というプラスの側面をもたらす反面、外部経費の獲得に日々追われることとなった。さらに、外部経費による活動の増加により、人材、内容、期間など様々な面で限定されたプロジェクト型の業務が多くなっている。こうした状況は中長期的に見た場合、果たして日本の学術・研究のためになるのか疑問を感じざるを得ない。ただし、マイナス面ばかりを考えても、プラスの成果を生むことはできないので、私たちは与えられた機会を最大限に活かし、その中で何ができるか模索を続けていこうと思う。

現在、当室では学部内外の研究機関や研究者の協力も得て、社会経済資料、資料保存、古文書、西洋古典籍について重点的にプロジェクトを動かしている。本号の各論考・報告は、みなこれらのプロジェクトに関わるもので、私たちの「模索」の経過報告となっている。

立教大学の上田修一先生には、4年前より、当室の資料保存に関する研究プロジェクトに加わっていただいている。今回もアメリカ司書教育における資料保存の扱われ方について興味深い論考をお寄せ頂いた。

また、高岡法科大学の本多俊彦先生には、『年報』3号に当室所蔵の古文書を利用した、近世古文書に関する重厚な論文を寄せていただいたが、今回は、そこで使われた資料の料紙について、復元実験のために助力を賜り、共同研究として成果を発表させてもらうことができた。

この場をお借りして、両先生には心より御礼申し上げたい。(小島浩之)